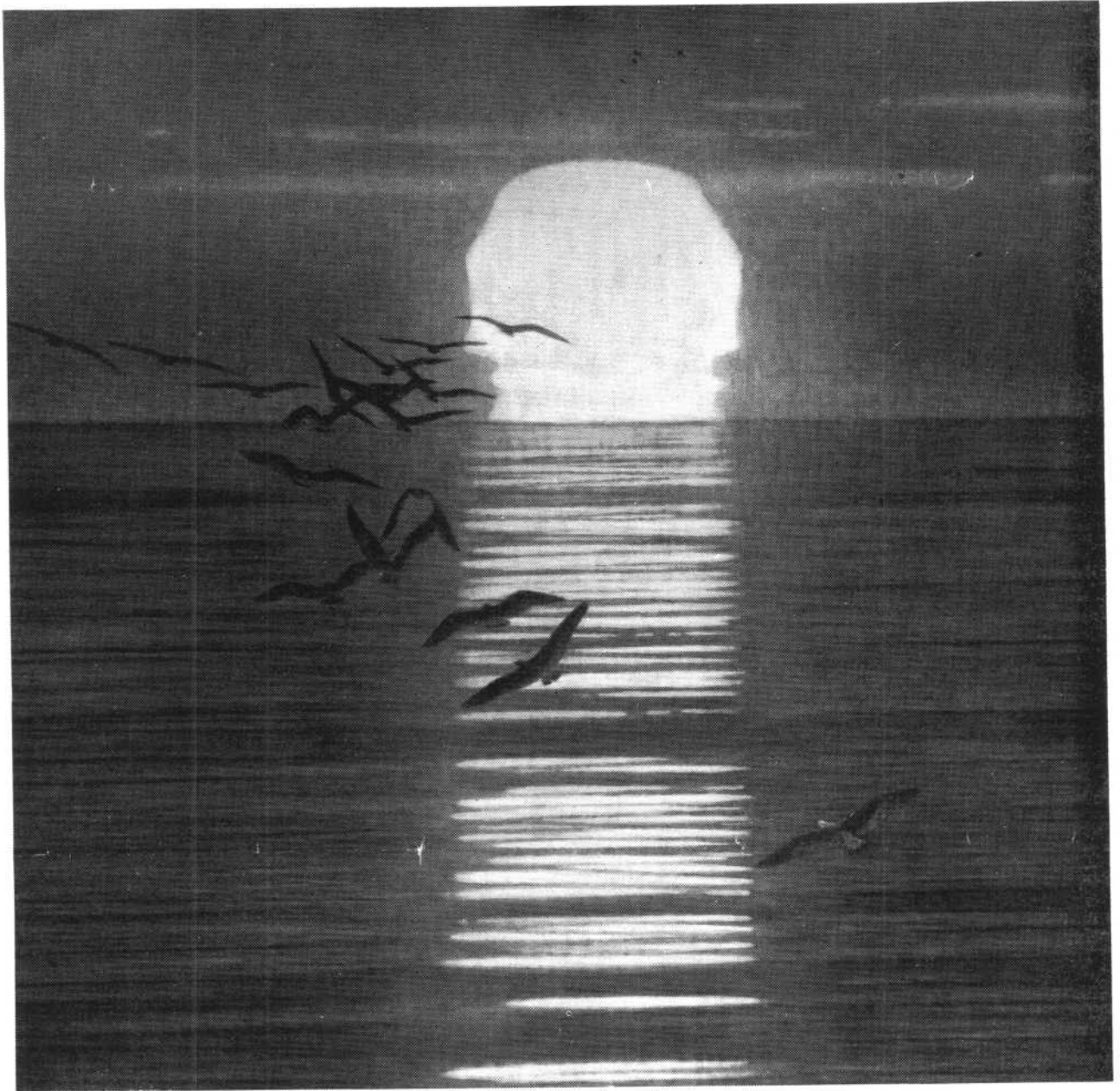


東京白楊丘より

第 5 号
57. 8. 1



岩橋英遠画「北の海」(陽) (山種美術館蔵)



白楊ヶ丘同窓会東京支部

旧制函館中学校
函館中部高等学校

第5回東京支部総会スナップ



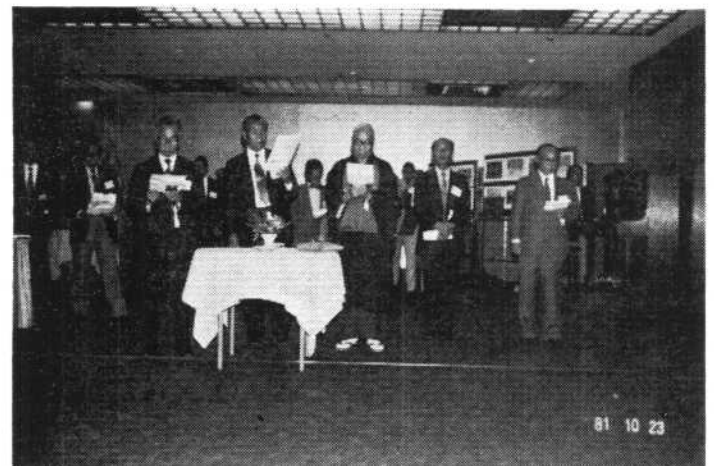
村上新支部長より新役員紹介



北川前支部長よりご挨拶



獅子舞で景気づけ



全員で校歌を斉唱

三代目の節目

東京支部長 村上敏夫



はからずも東京支部会員皆さまのご推挙をいただき三代目支部長に就任いたしました。支部創立以来五ヶ年になろうとしております。先輩諸兄のご努力により、組織の基盤は固まり、また運営活動も隆盛の途にあると言いながら、三代の節目にあつて、その任の重さを痛感いたしております。皆さまのご支援ご協力をお頼みする次第であります。

顧みて、既往実績を踏まえ、更に発展を期するため、時の推移に伴う諸般の情勢の変化に即応出来るよう、運営の面で若干の事項について手直し、改善すべきものがあると考えております。

例えば、支部活動を支える唯一の原資である年会費を所要適正の額に引き上げ年間経常収支の安定を図るとか、年会費納入方法を簡略化し、納入に当たり煩雑さを避けるとか、また会員名簿は発行後日数が経っているのでこの辺で一度異動をチェックすることも必要でないかなどであります。

会員の皆さまのご理解とご協力をもとに役員諸兄の積極的な遂行意欲が相俟てば、その開花結実は期して待つべきものと

があると思じます。本支部活動の一層の躍進のため、皆さまのご協力を希う次第であります。

第五回総会開催

新スタッフ決まる

五十六年度の白楊ヶ丘同窓会東京支部総会は、五十六年十月二十三日(金)前日に引き続きホテルオークラにて一九八名が出席して賑やかに行われた。

堤副部長の辞にはじまり、北川支部長が挨拶され、会務会計報告が行われた後、規約変更および役員改選が原案どおり決定した。

そして、新支部長に選任された村上敏夫氏をはじめ新役員が紹介され、力強くスタートすることになった。北川前支部長には本会発展のために多大のご尽力をいただいた御礼の印として感謝状と記念品が贈呈された。

第一部総会が終わったあとは片山明子女史(第54期)の司会でパーティの開宴となり、一段と賑々しく、同窓会らしく、あちこちで歓談の輪ができ、思い出話に花を咲かせていた。そして獅子舞の余興が入るなど時間の経つのも忘れるほど。最後は恒例により校歌を高らかに斉唱し、お互いに再会を約してお開きとなった。

新役員は次のとおり

支 部 長	村 上 敏 夫 (昭 8)
副 支 部 長	池 田 和 行 (昭 18)
(総務担当)	小 泉 龍 彦 (昭 25)
(事業担当)	野 村 實 實 (昭 30)
(会計担当)	小 畑 文 雄 (昭 3)
常 任 理 事	伊 東 克 郎 (昭 21・22)
	福 津 達 男 (昭 25)
	黒 川 陸 郎 (昭 29)
	加 藤 正 秋 (昭 29)
	吉 田 精 吾 (昭 30)
	吉 田 昌 昭 (昭 31)
	渡 谷 昌 昭 (昭 32)
	真 船 昭 夫 (昭 34)
	橋 本 正 宏 (昭 36)
	越 後 谷 治 宏 (昭 38)
	荒 井 正 治 (昭 38)
	長 島 裕 司 (昭 48)
	菊 地 勝 衛 (昭 6)
	宮 本 武 雄 (昭 8)
	阿 部 良 平 (昭 6)
	齊 藤 鎮 雄 (昭 8)
	和 田 貞 一 (昭 11)
	田 中 清 一 (昭 13)
	北 川 有 光 (昭 13)
	大 川 原 雄 三 (昭 2)

第六回総会開催の

おしらせ

10月15日(金)・健保会館で

今年度の総会の日程が次のとおりになりました。ことしは、お気軽にできるだけ大勢の会員の皆様にご参加いただきたいということで会費も少なくなりました。どうぞお繰り合わせご出席ください。

(くわしくは別紙総会のおしらせをこらんください)

1 と き 57年10月15日(金)

午後6時より

2 と ころ 健保会館・地下一階ホール

電話(03)四〇三一〇五三一

地下鉄千代田線乃木坂下車

スグ

3 会 費 五、〇〇〇円

会務報告 (56. 10. 1~57. 7. 31)

常任理事会	56. 10. 9	於：健保会館
	56. 12. 7	"
	57. 1. 18	"
	57. 2. 15	"
	57. 7. 13	"
理 事 会	57. 3. 19	"
会 報 発 行	東京白楊だより第5号	
	56. 7. 1	発行

会費の納入方法が

便利になります

本年三月十九日開催の理事会で、当支部の会計年度を毎年四月一日から翌年三月三十一日までとすること、および会費の納入方法を変更することが決定しました。(本件については本年度総会にて追認願う予定です。)

これまで会費納入については各期理事経由のため振込手数料の値上り、事務負担などもあって大変だったので、57年度分より郵便振替口座を設け、皆様に直接払込んでいただくことになりました。

これによって手続きが簡単になるとともに、会費の手数料負担もなくなり、大変便利になります。

これを機会に、本会の円滑な運営をはかるためにぜひとも会費納入率を高めていただきたく、皆様の格別のご協力をおねがいます。(くわしくは、別紙をごらんください。)

なお、56年10月より57年3月までの収支状況は次のとおりです。



収 支 報 告 書 (56.10.1から57.3.31まで)

収 入		支 出	
区 分	金 額	区 分	金 額
前 期 繰 越 金	417,869	第 5 回 総 会 経 費	1,445,050
56 年 度 会 費	614,000	常 任 理 事 会 費 (4 回)	64,850
総 会 会 費	1,287,000	理 事 会 費 (1 回)	43,435
寄 付 金	160,000	東 部 派 遣 費	46,400
名 簿 売 上 金	24,000	事 務 費	69,520
記 念 品 売 上 金	29,000	通 信 費	2,500
受 取 利 息	2,358	次 期 繰 越 金	862,472
合 計	2,534,227	合 計	2,534,227



よき伝統を大切に

学校長 小林 純 幸

早いもので、中部高校の校長として赴任して一年余があつたという間に過ぎた。その間数多くの新しい経験を味わつたが、最も印象に残つたことはと問われれば、躊躇なく以下のことを挙げる事ができよう。

ポプラ魂、白楊魂の何たるかは、僅か一年ではその全てを窺い知ることはもち論不可能ではあるが、その真髓らしきものが、そのまま現在の本校生にもよき伝統として受け継がれていると感ずるのは、私だけの親馬鹿的心境のせいとは思われな

い。赴任以来特に感じたのは、素直で、おおらか、明るい生徒が多いということであつた。いわゆる進学校という言葉で連想するにすぎずした陰鬱さが見られない。とりわけ驚ろかされたのは部活動の盛んなことである。放課後ともなると、グラウンドに体育館に、音楽室、実験室にと部活動に真剣に打ちこむ生徒で満ち満ちているといつてもオーバーではない。だからといつて野放図に遊び過ぎているわけではない。進学の成績はここ数年、開校以来というほどの成果をあげている。まさに文武両道。八十を過ぎてなお矍鑠として本校の時間講師を勤められる高島凡頭兎先生の謂ゆる大函中の精神のあら

われといつても過言ではないと信ずる。

同窓生、特に同期生の結びつきの強固なことにも感心させられた。昨年もたびたび、卒業三十周年、四十周年というような集まりに御招待をうけたが、道内はもとより遙か九州の遠くからも駆けつけた同期の人々の集まりには、眺めるこちらの心までが浮きうきするような歓びの熱気が溢れていたことだつた。その会合を記念して、何か在校生のために役立ててほしいと多額の寄贈をうけたのも、一、二にとどまらない。いつまでも母校の事を気にかけて下さる心には、ただ頭の下がるのみである。

同窓会の支部も新しく函館、小樽と整備された。東京支部の集まりは本部のそれを凌ぐ盛大さであることは北川さんなどから詳しくお聞きしている。定時制だけの同窓生の集まりも六年ぶりに開かれたが、想像以上の参加者であつた。六月の札幌、小樽の支部総会も盛況であつた。連帯の輪がつつぎと拡がり盛大になつてゆくことは全く頼もしい極みである。昭和六十年に予定される本校の九十周年記念事業も、これら同窓生に支えられ成功疑いなしと、心躍らせている次第である。

随筆

「故郷千島の思い出」

三上 四郎

昭3卒(第34期)

一昨年九月、東京地区同窓会の幹事をしている小畑文雄君からクラス会への誘いがあり、隣県神奈川在住の私も参加することになった。

卒業以来五十三年ぶりである。始めは名前と顔が一致しないままに、当時の母校、先生方、級友のこと等の思い出話をしている中に、その時々少年の顔が次第にオーバーラップしてきた。話題の中に私のクラスのうちで函館から最も遠い、しかも、ソ連に占領されている北方領土北千島択捉島の出身であると話をしたところ、皆は意外な面持ちであった。そしてひとしきり北千島の話が話題になった。

その択捉島、地図を展げてみると豆粒ほどの小さい島だが、佐渡が島とどちらが大きいかとよく聞かれる。実際は島長二百キロ、面積は佐渡の約四倍あり、日本で一番大きい離島である。

すでに六十年以上も過去のことであり、忘却していることも多いが、一面、今だに鮮明に脳裏にやきついていることもある。当時の島の生活はランプの時代

で、陸上の交通機関は馬が唯一のものであった。貨物、郵便、新聞等は月二回の定期船により運ばれるが、十二月から翌四月までは流水にとざされ、全くの孤島となる。ただ太平洋岸のヒトカブ湾だけが不凍港で、真珠湾攻撃の際日本海軍が最後に集結出撃したことで有名になった。畜産、林業、鉱業もあったが、最大の産業は漁業で、今では想像もつかないような豊富な海域であった。

短い春夏が過ぎ、約六ヶ月の冬の苛酷な自然と、環境の淋しさに堪えて生きている大人達とちがいで、子供は四季それぞれ、山に川に、自分達が作った遊び道具を自慢げに用いて自然の中に楽しく生活していた。島には中学校がなかったので進学のためには本道か内地に出なければならぬ。私は五年生の時両親の許を離れ、単身函館に出て下宿生活を始めた。

その後私は両親と一緒に暖かい家庭生活を送る機会がなかった。宝小學校を経て、大正十二年函館中学に入学した。中学生生活は今とは違い深刻な受験地獄もなく、適当な勉強で結構楽しく過ごすことができた。校庭の周囲に亭々とそびえるポプラ並木を仰ぎ、時任牧場からきこえる長閑なひばりの声を聞き、大森海岸まで見渡せる砂山をかけ廻り、のびのびと過した。但し、上級生への欠礼をした時の鉄拳を除いては。特に、夏休みに故郷へ帰ることが何よりの楽しみで、期末試験の終るのが待ち遠しかった。

現在はソ連の不法占領となり、島がどのように変わったか知るすべもないが、今でも眼を閉じると、春になると一斉に咲く野山の花園、冬は流水にとざされる白い海が臉に浮かぶ。最後の見納めになるだろうが、この六月下旬、根室、納沙布、標津、知床方面からわが北方領土をしっかり見てこようと思っている。

(筆者三上氏は永年にわたり医療行政に尽した功績により昨年勲五等瑞宝章叙勲の栄を受けました―編集)



表紙絵画家のご紹介

岩橋英遠氏(日本美術院理事)
明治36年 北海道空知郡江部乙村に生まれる
大正9年 安田毅彦に師事
昭和9年 院展で文部大臣賞受賞
昭和17年 法隆寺金堂壁画再現模写に参加
昭和18年 東京芸術大学教授
昭和29年 毎日芸術賞受賞
昭和56年 日本芸術院会員に選任される
広い色彩、省略の妙、巧みな構成のうち、北国の詩情をたたよわせている。

野球部時代の思い出

伏見 滋 夫

昭7卒(第38期)

私は二年生より野球部に入りました。小学校時代は少年野球の名門「弥生小学校」でしたので小学校四年生より先輩、先生等に大いに鍛えられました。北海道の公立の普通高校で現在まで道代表校に二回なったのは函館中学校(現中部高校)の他にはない筈です。

六十八才となった現在でも忘れられないのは昭和六年の春に函館新聞社主催の東北、北海道選抜中等野球大会のことと夏の朝日新聞社の甲子園行の札幌大会のことです。

春の選抜大会は第一回で(翌年より文部大臣通達で地方の選抜大会はやれないことになりました)全道より北中、札幌の強豪、東北地方より、八戸中学、秋田中学等たしか二十チーム位、集ったと思います。球場は昭和九年の大火で焼失した谷地頭球場でした。一回戦の強敵函館商業を七―五で破り後は順調に決勝まで進み、愈々札幌商業と対峙しました。

試合は双方共打撃大いに振い、七回まで五―六で本校がリードされてきましたが、八回に二点をとり七―六と逆転、九回ノーアウトでランナー一塁も、打者を三振、その時エンドランで二塁に走った一塁ランナーも吉川捕手の好送球で二塁に刺して一挙に二死となり、そのまま七

対六で優勝しました。この大会は前述した通り第一回大会だけで禁止となったのでその時の優勝旗と優勝カップ五つがまだ母校に保存されてある筈です。

次に夏の甲子園行は札幌北大球場で行われ、順調に準決勝まで進みました。残ったのは札商、函商、室蘭中学と函中の四校、札商は函商をくだして決勝進出。我々は室蘭中学が相手でした。前日ようやく函館師範に五―四で辛勝したチームなので最初からなめってかかったのが失敗でした。(何事も相手を見くびることはよくないことです)前半三―一でリードしていたのが、六回に丸谷一壘手が三塁ゴロの投球をポロリとエラーしてからテキサス安打等が続いて一挙五点をとられ、七―四で敗れてしまったのです。試合後きいたのですが室蘭中は大会前に太平洋クラブの久慈さんを招いて十日間みっちり練習して実力を伸ばして来ておったのでした。この年は宿敵の札幌高業が甲子園に行き、とうとう宿願は達成出来ず卒業してしまいました。半世紀前の昭和六年の青春時代の想い出です。その時のメンバーは次の通りです。

見川(在函館人) 谷(在東京人) 野(在小樽人) 崎(在函館人) 川(在函館人) 山(在故郷人) 木(在故郷人) 田(在故郷人) 達(在函館人) 藤(在東京人) 田(在東京人) 伏(在東京人) 吉(在東京人) 丸(在東京人) 大(在東京人) 宮(在東京人) 石(在東京人) 横(在東京人) 米(在東京人) 浜(在東京人) 山(在東京人) 安(在東京人) 佐(在東京人) 福(在東京人)

「おながれ」

梅田 良太郎

昭13卒(第40期)

昨今はパーティばやりでお座敷での宴会が少なくなり、盃のやりとりが出来なくなってきた。まことに淋しい次第である。上智大学のある外人教授が、日本の経済発展は、会社帰りのサラリーマンの夜の行動にあると面白いことを話していた。会社の上司・同僚とコップを傾けながら、本音の話を口角泡を飛ばして議論している。時には部下が社長になり上司が部下になる場面も見受けることがある。これをノミネーションと云うのだそうである。会社はこれに対して残業手当や交際費を出していない、これらは全て自己負担である。外国ではみられない風景だそうである。会社ではたてまえで仕事が行われ、夜の酒場では本音が出るのである。管理職にある上司は自腹を切って本音を聴きだそうとして部下を誘うのである。日本全国の夜の酒場は熱気でムンムンしている。会社と社員の一体感の強い会社ほど好成績を挙げている。いわゆる忠誠心の強い社員が多ければ多いほどその会社は繁栄しているのである。外国のような個人主義尊重の国ではみられないことなのである。

宴席でしばしば見受けることであるが、「返盃」という行為がある。ある時さる有名な方から次のような話を聞いた。

「舞鶴よこい」

勝浦 寛

昭17卒(第44期)

職業柄、一つ土地に腰を落着けることもなく、北は札幌から西は神戸まで転々としておりますが、ここ舞鶴に来てから一年余りがたちました。山陰は初めての土地ですので、休みを利用してはあちこち尋ね歩いております。

舞鶴は、歌「岸壁の母」で知られている引揚船の入港した旧海軍軍港の町でありました。舞鶴港は地名が示すように、鶴が双翼を上げた形をした西港、東港に分れており、引揚船の入ったのは東港でした。現在の職場(舞鶴海洋气象台)は、西港の岸壁近くにあり毎日港が眺められます。西港は、北方材を積んだソ連船の入出港が多く、また小樽との間のフェリーも発着しております。港の周囲は、緑濃い島、山が海岸に迫っており、四季の移り変りが目を楽ませてくれます。函中時代、博物研究会と山岳部で、休日にはほとんど山野を歩き回っておったこと、また現在気象庁という職場についたことも、自然の中で生活が私の性に合っているのであります。東京等の大都市の生活から抜け出したという実感が、心の安らぎをおぼえさせてくれます。

職業柄、新しい土地に参りますと、その土地の気象条件が気になります。舞鶴

は、位置的には横浜とほぼ同緯度にありますが、日本海側と太平洋側との違いははっきり気候値にあらわれています。函館もどちらかというと、日本海側の気候であり、夏のむし暑さには参った記憶があります。舞鶴と横浜を比べてみると、月平均気温はそれ程差はありません。舞鶴が冬は約一・五度低く、夏は逆に〇・五度程高いのですが、特に目につくのが湿度です。夏はほぼ同じですが、冬は20%も差があります。これが日本海側と太平洋側のはっきりした違いです。

昨年一年過ごした感じでは、夏のむし暑さもそれ程気になりませんでした。これは、北国の生活から離れて南の生活が長くなり暑さにも馴れたせいもありますが、舞鶴の月平均湿度の変化が日本一小さいので高湿度に身体が馴らされたのかなあとも思っています。(四月76%、七月83%)

天の橋立で有名な丹後半島の山間部では、丹後縮緬の生産がさかんですが、高品質を保っている要因は、どうもこの湿度が関係しているのではないかと思っています。業者の話では、谷間一つ違っても品質に差があるそうで、高湿度・小変化が微妙に影響するらしいです。



ふるさと函館

いずみ きよし

ふるさと函館 五稜郭
運動会で 肩くんで
走った友の 面影が
今も残るよ この胸に

心の函館 トラピスト
すずらんかおる 立に臥し
十五で聞いた 鐘の音
今もひびくよ この胸に

暇の函館 臥牛山
啄木の歌 きざまれた
立待岬で 見た月が
今も照らすよ この胸を

ガラスの蝶

いずみ きよし

ガラスの蝶です ほらごらん
つららの腕から 生れてた
ガラスの蝶は はねうすく
月のしずくを 吸いながら
つめたい風に ふるえます

ガラスの蝶です 光るでしょ
はるかな空から 舞いおりた
ガラス蝶は きらきらと
雪の女神の 贈りもの
両手でそっと 抱きましよう

ガラスの蝶です さがしましよ
雪降る夜を とんできた
ガラスの蝶は ただひとり
道に迷って 泣いています
明るい部屋に 呼びましよう
(本名・浦田常治)

昭17卒(44期)

(注)「ガラスの蝶」はホームソングとして北海道放送で放送され、その後合唱曲として出版されました。

「海辺の墓地」

安芸 礼太郎

昭18卒(第45期)

マルセーユからポルドーに飛ぶ飛行機が、ローヌの河口を過ぎて間もなく、地中海に浮ぶ小島が砂州で連って、懐に小さな内海を抱く格好になった海辺の小さな町の上空を通る。街は丘をうすめ、寺院を中心に砂州一ぱいに広がって、水路を挟んだ対岸の砂州とも、幾つかの橋で繋がっている。内海には牡蛎の養殖だらうか、柵状の木枠が浮び、外海には青い地中海と茶色の陸地とを距てる、孤状の白波の列が、美しく二条の曲線を描いている。

此の町が、詩人バレリーの生れたセートである。バレリーの魂は、彼の有名な詩「海辺の墓地」そのままに、海を見下ろすこの町の丘の墓地に、眠っているの

だと言う。

昭和二十年夏、高校生だった私達は、勤労働員の飛行機工場で、狂おしいまでの空腹と、空襲警報の恐怖におびえながら、発動機の製造に追いまくられていた。そんな私達と、起居を共にされた引卒の先生達は、食事の後の僅かの休憩時間をさいては、それぞれ得意の分野の講義をしてくれた。独文の先生とは一緒にリンデンバウムを合唱したし、(演劇評論家として名高い)英語の先生は、「切られ与三」や「浜松屋の場」の話をしてくれた。仏文の伊吹先生は、理科生の私達を前に、バレリーの「海辺の墓地」を朗唱し、あの有名な「風は起れり、生きることせざらめや」の句の意味する所を、「個人の知性に立ち帰れ」と説いてくれたものである。

文学にうとい私達には、猫に小判だったかも知れない。私はそのお話を聞きながら、バレリーの名と共に、わが故郷函館の海辺の崖の上にある、墓地の風景を、たまたま美しく、懐しく思い出して、記憶に留めた。

我家の墓地の前に立てば、ドーバーを思わず対岸の白い崖の上に、緑の山々は打ち続き、青畳の様な海の上を、今しも出港して行く連絡船の白い姿を見下すことが出来る。

私は夏ごとに墓参に帰り、あの見事にも和やかな風景の中に、自分の姿を一個の点景に嵌め込んで、私自身が故郷の空

気の中に拡散溶解して行く歎びを呼吸する。海辺の墓地では空気まで清澄な透明色に光っているようだ。私は毎年その光る風景に、自分の心もいつしか光り出すのではないかと、かすかな期待を懐いては、故郷を去って来るのである。

私は飛行機の上から、バレーリーのセー トを俯瞰しながら、同じ「海辺の墓地」を故郷に持つ自分を、何故か誇らしく思っているのであった。

(本名 中島恭一)

「白楊クラブ会館の夢」

山 元 盛 一

昭19卒(第46期)

私は仕事でよく成城クラブや学士会館に行くが、御承知の通りこれらは母校を基盤にした同窓会のクラブである。

私も函館に行ったとき、たまに母校の前を通ることもあり「寄って見ようかな」と思うこともあるが、先生方は勤務時間内であり、同窓会の役員でもないものがフラリと寄って御迷惑をかけても、とつい通りすぎてしまう。

こんな時、ああ成城クラブのような、簡単に、気軽に利用できるクラブがあれば、寄って「お茶の一杯もごちそうになり、母校の近況も聞けるのに」と何度か思ったものである。

学士会館や成城クラブ等のようなご大

層なものでなくても結構、ビルの二部屋ぐらいで、一部屋はサロンになっていれば良いと思う。そうすると函館に行く前に46期函館部会の幹事に電話して「オーイ〇月〇日の〇時頃、函館に行くから白楊クラブで会おう」ということもできる。いくら気のおけない同期の桜でも、他人がいっぱい居る職場の応接間では、何となく気づまりなものである。

東京でクラブを設けることは大変だが、地元の函館でオール白楊会の実力をもってすれば何とかなるのではないかとも思うが甘いかな？ 第一、函館在住の同窓生の皆さんも、気軽に顔合わせのできる基地は便利でしょう。

もう一度演歌「夢でも良いから(クラブで)会えるだろう」……と。



「雑 感」

橋 本 正 夫

昭34卒(第61期)

我々四十代前半の親達にとって、同窓会的会合を持つと一回は、と言ってよい程出てくる話題は、子供の教育のことである。自分達が育った終戦後の時代は食糧がなく、生活が成り立つかどうか問題で、ある一部の人達以外は教育よりも衛生、食事などが関心事で、まず生きることに皆一生懸命であった。

最近私が出席した会合では、先輩と談笑中お子さんの話題に及んだところ、その後の会話が大変しくなってきた経験をした。そしてその会が終了欠席した人に電話で報告をする段になって、今後はお互いの子供の教育について話し合うことになってしまい、昔と今の教育を比較批判しているうち、どうも納得できない思いついになった。要するに、大学入試程度の知識は、我々の時代は高校卒の年頃で身に付け、それが大学入試で試されたように考えるが、現在は同様の知識をかみ砕いてはいるものの、小学校高学年まで持ってきて詰め込み、試しているように思われる。更に同じことを少し程度を上げて中学でも教え、又更に上げて高校でも、というわけで、結局は昔と同じレベルで大学入試が行われているのではないか。電話で話した先輩も、最近彼の医療機関に来る若い人達を見ていると、昔と

比べて特に小さい時から何倍も教育されて来ているにもかかわらず、かえって資質的に優れているとは思えないと言っていた。現在のような教育が続けられれば、落ちこぼれ、校内暴力、家庭内暴力、少年非行、その他諸々の悪現象がますます増え、これらによって成人期の犯罪の基礎作りが行われることにはならないか。我が国特有の諸外国より犯罪絶対数が少ないという長所などは、いずれは消失してしまうのではないかと思われる。

これ等の問題に関して小生が考える拙い解決方法の一つは、義務教育内での将来に対する進路の多様化である。そして義務教育内の多様化が難しければ、義務教育の年数の短縮があっても良いのではないか。何年か掛かって義務教育を一年二年短縮すれば、早く自分の進路も決まり、落ちこぼれ、校内暴力等で数年間を無意味に過ごす子供達にも、少しは早く社会を見る眼を養わせられると思うがどんなものであろうか。

これらは独断と偏見による短絡的な考えであるかもしれないが、我が家の小学高学年三人を見ていると、無駄と社会悪を作っているように思えてならないのである。



同期の集い

大 15 卒

名幹事、酒井忠治君亡きあと、しばらくとぎれていた二八期会を、やっと開くことが出来た。関東、関西の会員は十五名だが、まだ現役のバリバリでいそがしい人、また健康上の理由で来れない向きもあり、大阪、九州の会員はしよせん無理なので、集ったのは、加藤修一郎、神山誠次、銀家元男、田島助太郎、高橋孝行、時任敏、細川輝彦、佐瀬順夫の八名、成績まず良好というところであろう。

六月十九日の夕方から、場所は文京区本郷館。久しぶりで話はずみ、時のたつのを忘れる。

欠席者のために寄せ書きをしたが、いくつかひろい上げて見ると

「のこるものに福来るノ 逢えて楽しかった」、「とろとろと酔い優しくなるう」として、「何人になっても最後までこの会を続けたいものです」、「老人の健康談義の会になりました」、「同輩諸君、益々元気で余生を送りましょう」、「おかげさまですこぶる元氣、又時々会いたいね」等々。

終りに校歌「玄冥の一道」を歌い、また応援歌「宇賀の浦浪」、「黄塵うずまく谷地頭」 「俺どん選手の猛者達は」をど

なり、十一月の再会を約して別れた。

(佐瀬順夫記)

昭 3 卒

① 日時 昭和五十七年六月二十七日
午前十一時半

② 会場 横浜市中華街の飯店

③ 出席者数 八人

④ 世話人 諸星義夫(旧姓木元)

(〇四五) 六四一—四一二五

⑤ 横浜桜木町駅に集合、中華街で会食談の後山下町、港の見える丘公園三溪園などを巡ぐる。

昭 6 卒

恒例の同級会は毎年一月に開催することになっているが、昭和五十七年は世話人の都合で心ならずも開催ができませんでした。深くお詫びします。

明年一月には必ず開催しますので、関東地区居住の級友の方々全員ご出席いただくよう、今からご案内申し上げます。

世話人、菊地勝衛

(〇四七三) 七七一—八一八六

★ ★ ★ ★

昭 7 卒 (東京銀揚会)

① 在京三十二名おります。

五十七年五月十四日(金)

② 会津若松市芦の牧温泉、美好館

③ 出席者 十名

④ 世話人

大原孫七、三ツ谷信栄、伏見滋夫

⑤ 毎年二度位、都内で集っておりますが、今年は卒業五十年目なので一泊してやりました。

この秋九月十八日に函館市(湯の川)

で全国大会をやることになりました。

昭 8 卒 (函八会)

在京同期生中心に東北及び関西在住者を含め33名が函八会という名で時折集っているが、このたび6月25日初台の三菱の寮に21名が集って旧交をあたためた。五十年振りに福村虎次郎君が顔を出してくれて嬉しい一夜であった。

その節、来年昭和58年は卒業後50周年になるので、函館で集まろう、その日は8月27日、28日の両日とすることに函館、札幌地区とも連絡がとれている旨幹事より話があり、意気正に天をつく様だった。校歌を合唱して散会。

(村上敏夫記)

昭 19 卒

① ニュートキー(銀座スキヤ橋)

② 二十名平均

③ 世話人

渡辺保二(二八一—〇二〇一)

笠島秀夫(五三三—五五七一)

④ 恩師 石畑善四郎先生、鈴木門也先生を招聘

⑤ 函館及び札幌同期会状況報告、函館から同期生の出席依頼、閉会後有志で銀座界限へ二次会を行う。

昭 25 卒 (玄羊会)

「二上九段棋聖を三度び防衛」のニュースが流れた。同時にすぐ玄羊会集合の声がかかる。二月十三日、中央区立中央会館と決めたのもスピーディ。今度は企画、「何か考えるべし」「棋聖に花を添えるべし」と提案あり。よし「つつじヶ丘同期生」。五十歳では花と言えるか疑問も出たが、皆の頭の中はセーラー服の立高女生。「熟慮断行」と糸口をつかんで実行にこぎつけた。案内状発送六十六通、どんどん返信が来る。「いつもは同じ顔でつままないが、今度は片立高女生が来るなら行く」「〇〇ちゃんを呼んで来てくれ」とクラブと間違っているような返事など幹事役も手を焼いた。岩淵、生駒、河口、菊池昶、小泉、佐藤信、瀬田

松、川本、竹沢、滝川、外山、中村勝、東川、福津、二上、宮、松吉、吉田信と集い、加えて庄巻は、二十数年振り出て来てくれた穴戸一人の登場だった。

「オ、ライオン」と人気集中。一人コップ酒をあおる豪傑ぶりは往年の勇姿そのまま。会中に予告なしのスターが現われた。札幌経由で来た柏倉、旅の疲れもなんのその、例の「民知節」を一席。高女組は、クラブ奈里多の成田慶子（幸小）を軸に、佐田明子（柏野小）、角田敦子（弥生小）、森聖業（青柳小）、そして若さを一人誇っている近江政雄兄の妹洋子（柏野小）君と五名。男女七歳にして席を同じうせずから四十数年、とても全員五十歳とは思えぬハシヤギ振り、シャベリ振りだった。秘めたロマンス、悲恋物語もあちこちで飛び出し、意外性を感じとった仲間も少なくないようだった。最後に二上棋聖防衛を果し、永久棋聖を又他のタイトルもと欲深く祈り、拍手。

三年後にある玄羊会卒業三十五周年記念は東京組が世話係、そのリーダーに我等が佐藤ちゃんを指名「文句ナシ」「大いにやるべし」で気炎。ただ福津から福沢の一周忌の話が出、ひとときしんみりで幕を閉じた。恒例の「玄冥の北の一道」も声高らか元氣よし。高女校歌にはどういいうワケか目をつぶって皆おとなしく聞き入っていた。

（小泉龍彦記）

昭 29 卒

- ① 五十七年十一月十九日（金）
葵会館（港区虎ノ門）
- ② 五十七年度幹事
高橋正美
- ③ 〇四四（二〇一）二二一六
桐谷芳和

同窓会五十六期理事

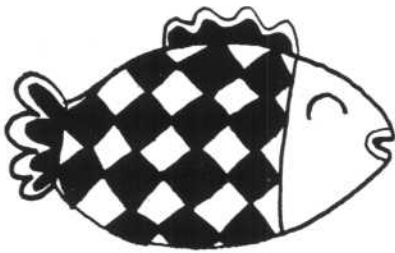
加藤正秋

〇三（五八二）三一一一

- ④ 事務局 東京都品川区上大崎
三一四一三〇一三〇二
黒川設計事務所内

〇三（四四七）四〇三〇

同期会、同窓会についてのくわしいことは黒川迄お問い合わせ下さい。
三十周年記念会に対する準備打合せもありますので多数出席下さい。
第11回同期会はホテル高輪にて九月二十六日、36名の出席のもとに行いました。



昭 30 卒

- ① 五十七年一月二十四日（日）
午後二〜五時
- ② 麴町会館
- ③ 出席者 三十七名

（越田先生も出席されました）

④ 幹事、佐々木弘明、姫岩善光

⑤ 次回は来年開催予定

幹事、浜田 実（二七二）三二五一

手代木豪之（二一八）三四一一

昭 42 卒

第69期生、東京近郊在住者の第一回同期会が、三月二十八日午後一時より、芝の「ホテル高輪」にて子連れで開催。

出席者は三十三名、内十四名女性、そして子供達七名、遠くは清水市、仙台市からも出席者があり、十五年振りに再会した人も大勢いて、なつかしさもひとしおでした。

とりわけ、子育て真最中の年令とあって、世話役の方の子供達への配慮には頭の下がる思いでした。

幹事のTさん、食べる物も食べず写真をとって下さったUMさん、そして世話役をして下さったUGさん外の方々、本当にありがとうございます。次回からを心待ちにしております。

（鈴木（旧姓吉田）淑子記）



私の物を考える基準というものが出来上ったのが高校の三年間だった様な気がします。そして、今でも（鏡の中の自分は棚に上げて）高校生の気分にいる様に思える時があったのですが、同期会に出てみて「三十四才になってしまったなあ……」と思いついた感じがします。目尻のしわ、白い髪、何よりも小学生の父であり、母であるなんて！ 皆んな大人になっただけで済んですねえ……。改めて十五年という年月の重さを感じてしまいました。

あの頃のこぼれ落ちるほどの夢や希望やらを今の私はどれだけこの手にかかえているのかしらなんて、その晩は妙に感傷的になってしまいました。とてもとても楽しい会でした。もっともっと多くの人達にも出席してもらいたい楽しい会ですね。それに「子供連れ可」というのも最高のアイデアだと思います。

（松川英里子（旧姓持木宏子）記）



母校だより

全日本合唱

コンクールに出場して

いつの間にか師走の声を聞くこの頃です。皆様方には御健勝でお過ごしでしょうか。

さて私達函館中部高等学校音楽部一同は、昨年十一月二十一日・二十二日の両日福岡市で開催された第34回全日本合唱コンクール（高校の部）に参加、無事帰函致しました。

私達は力一杯の演奏を致したつもりですが残念ながら今年も入賞出来ませんでした。さすがは全国のレベルは高く、特に東北勢の物凄じばかりの「力と技術」に圧倒されました。しかしとにかく良い勉強をさせて頂きました。

これもひとえに昨年に引続いての皆様方の御理解と暖かい御支援の賜と心から感謝申し上げます。

「本当に有難度う御座居ました。」

私達はこれを機に更に精進を重ね捲土重来を期す所存でございます。どうぞ今後ともよろしく御指導御鞭撻下さいませよう御願ひ申し上げます。

末筆ながら皆様方の御多幸をお祈りし誠に粗略ではありますが報告と御礼に代えさせて頂きます。

第34回全日本合唱コンクール全国大会
主催 全日本合唱連盟・朝日新聞社・福岡県・福岡市・福岡県教育委員会・福岡市教育委員会

81.11.21&22 於福岡サンパレスホール
Photo: テス殿島舞台写真

■北海道立函館中部高等学校音楽部（北海道支部代表） 指揮=大森 清
●選抜曲=Man that is born of a woman
●自由曲=程声台詞組曲「内なる遠さ」より 合掌 さる・燃えるもの 蜘蛛



函館中部高等学校校長 小林純幸
同 音楽部部长 広川裕
同 顧問 大森清
同 関 大森 睿

△国立大学合格状況

国立大学共通一次試験が実施されて四年目、すっかり定着した感じがありますが、またそれに伴って情報化社会のあおりを受けて、受験も一層の偏差値による輪切りが激しくなっております。昭和五十六年の驚異的飛躍の翌年である昭和五十七年度は一浪生が激減している中で、現役の生徒が予想以上に健闘したと言えます。

共通一次試験は、三年生三百八十九名中二百七十七名が受験、平均点六百六十点(全国平均六百二十点)でした。

二次試験の結果、東大、東北大、京前大、東京外大、一橋大、京大、北大、小樽商大、旭川医大、札幌医大等、全国の国公大に順調に合格し、国立百七十五、公立百二十四計百九十九名が合格し、昨年に続き白楊魂を発揮してくれたと思っております。

△私立大学の合格状況

国立大学志向を強く生徒に要求している学校の姿勢によるせいも、私立大については、前年程度の合格数二百三十九名でした。その内訳は、早稲田大、慶応大、明治大、法政大、立教大、日大、上智大、青山学院大、中央大、東京理科大学、同志社大、立命館大、その他私立医大、私立薬科大に多数の生徒が合格しました。

昭和57年度
卒業生の進路

区分	進路 確定 数	名
国立大	101	
公立大	5	
国立短大	5	
私立大	64	
各種学校	15	
就職者	25	
無業者	158	
計	338	

△その他

最近特に著しいことは、資格を得るための各種学校、文部省所管外の学校、例えば防衛大、防衛医大、航空保安等に進学するものが増えつつあることです。

△後輩の激励、御指導のお願い

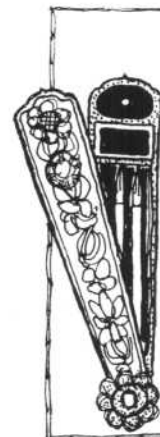
以上述べた大学に進学した後輩達が大学卒業後、Uターンして地元函館に就職しようとしても甚だ困難な状況になっており、彼等の殆んど大多数の後輩は、首都圏で就職することになるのは確実であります。私達も生徒諸君には東京白楊ヶ丘同窓会東京支部の御活躍の状況を折にふれ話をしております。また今春の同窓会入会式に小泉龍彦氏の御出席を頂き、後輩に御激励を賜わり有難うございました。紙面を借りて御礼申し上げます。今後共彼等に対し、諸先輩の暖かい激励と御援助、御指導を切にお願い致します。

追記

本年度もクラブ活動は活発で、函館地区大会で優勝し、全道大会に駒を進めたものは、バドミントン(男)、バスケット(男)、バレーボール(男女)、硬式庭球(男女)、その他個人戦には剣道、陸上、軟式庭球があり、注目の硬式野球は春季大会ベスト4、夏の甲子園予選は勝ち進んでいるところです。文武両道の生徒に御声援下さい。



編集後記



○三代目の村上支部長を迎え、スタッフの若返り?をはかって、地味でも着実にをモットーにスタート。

○同期会は楽しいが、同窓会はどうも：の声が多い。ことしの総会はこの悩みを何とか少しでも改善したいというのが願いです。
幹事一同、知恵をしぼって研究中、乞うご期待!

○会報は同窓会の大事な交流の場です。皆さんからの楽しいおたよりをお待ちしております。
今後ともどうぞよろしく。

発行・白楊ヶ丘同窓会東京支部
編集・伊東克郎、吉田精吾、加藤正夫
支部分局・東京新宿区坂町一八
事務局・小畑文雄方
電話・(三五二)二〇二二